



私たちが目指すもの

私たちは、北アルプスの自然の恵みと、その恩恵を受けた松本と高山に根付くこの地域を、一つの観光圏として捉えたときに、多彩で上質な体験と滞在ができる魅力的な観光地経営によって、地域の価値が向上し、持続的な発展につながるものと考えます。観光産業をエンジンとして、この地域社会の持続性を高め、50年、100年先の未来のためのエコシステムの形成（＝高付加価値な観光地づくり）を目指します。

高山市が「世界の持続可能な観光地アワード」(※)にて中部地方で初となるシルバー賞を獲得！国内では釜石市、ニセコ町に続き、大洲市、小豆島と共に受賞したもので、サステナブルツーリズムに取り組む地域として国際的なブランド力の向上が期待されます。
※国際認証団体「Green Destinations」が独自の評価基準によって持続可能な地域経営をしている観光地を評価し、表彰する制度。

Topics 1

高付加価値ツアーをエリア横断で実施するため、地域で活躍されているガイドの方々とワークショップ等で様々な議論しました！

【目的と実施方針】

2023年度策定したマスタープランでは、山岳エリアを挟み松本・高山エリアの広域をカバーするには、ガイド人材の不足や専門性の底上げ、観光コンテンツを提供する事業者あるいは地域住民等との密接な関係構築の方策や情報連携の仕組み、そして制度やマニュアルと言った共通したツールが無いことが課題として挙げられました。

そこで今年度は、実際にこの地域にどのようなガイド団体が存在し、どこでどのようなスタイルでガイドをされているのか、各ガイド団体の経営状況や人材育成、組織及び地域としての課題について、まず個別に聞き取りを行い現状把握するとともに、次に複数の団体の参加のもとワークショップを開催し、事前に抽出された課題に対する解決のアイデアを議論しました。

【実施内容・成果】

○自治体や観光事業者等へ事前調査した結果、この地域には40を超えるガイド団体が活動しており、その経営スタイルも老舗ボランティアからアウトドア、登山ガイド、そして通訳など、実に多種多様です（表1）。小さな事業者や個人ガイドが多い傾向にあります。

○ワークショップにおける課題に対するアイデアの一部を示します。

1) ガイド育成

- ・地域の人にガイドとは何かを知ってもらうことが重要
- ・共有できるマニュアルや能力表により、ガイド力の底上げをする
- ・英語を話す人を山のガイドに。兼業、移住者も視野に育成する

2) 地域スポットガイドの参画を得るプラットフォーム

- ・松本高山全体のガイド事業者組織、ガイド認定で信頼度を高める

○今後の展開：ガイド人材は研修講座のみでの育成は難しく、OJTの機会が重要で、ガイド主体のツアー造成から受入れ実地研修、ショートツアーにて早期デビューを促す研修、各団体の専門性から学ぶ相互研修も検討していく必要性が示唆されました。高付加価値ツアーへの協働に熱意が感じられました。



ガイド団体ワークショップの様子

松本市街地エリア	山岳エリア	高山市街地エリア
・松本城ボランティアガイド ・通訳ボランティアガイド ・まちなかボランティアガイド ・通訳ガイド ・体験施設	・アウトドアガイド事業者 ・山岳ガイド ・パークボランティア ・雇用型ガイド(法人付帯部門) ・自然施設ガイド ・専門(個人)ガイド ・交通サービス施設	・通訳ガイド ・まちなかガイド(ショート) ・(酒蔵見学)ツアーガイド ・地域発着ガイド(白川郷等)

表1) ヒアリング調査によるガイド団体の整理

この人に聞く！

日本エコツーリズムセンター
共同代表理事
中澤朋代

ガイド業は楽しみの提供の影で、参加する方の安全を守る責任も大きいですが、日々がクリエイティブであり、成果が即時に判る緊張感と感動、地域に貢献している！など、やりがいがいっぱいの仕事です。そのスキルは多様で、自分も地域も人も自然も好きになる。次世代がトライできる新たな地場産業にすべく、官民連携の取り組みを通して形になるよう、パイプ役を担っています。

松本と実家高山市郊外の2拠点で活動しています。姉妹都市50周年で始まった松本高山Big Bridge構想と同時に、偶然にも行き来が増えました。

以前は富士山や沖縄で10年間プロガイドとして自然学校に所属し、松本大学で18年専任教員として、地元学生とエコツーリズムや持続可能な観光を専門に地域のアクションにも参画してきました。

農山村の未来づくりは国全体を豊かにすると信じて活動を続けます。

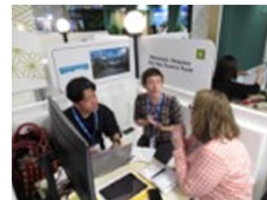
Topics 2

ILTM (International Luxury Travel Market) @カンヌに出展してきました！

JNTOが有する日本のブースの一角にて、12/2～5の3日間で合計40社、主に欧州（仏・伊・英）と北米（アメリカ・メキシコ）のラグジュアリートラベルバイヤーとして知られる旅行会社（年間の訪日送客規模50～200名程度）と商談を行いました。1社あたり商談は約20分と限られた時間であり、作成したブランドブックやタリフは短時間で説明するのに役立ちました。

他の国に比べ、どの旅行会社も訪日旅行には高い関心と期待を寄せていましたが、初訪日のお客様のほとんどがゴールドルート（東京・金沢・京都・広島）が中心であり、松本高山エリアの相対的知名度はそこまで高くはないことを認識しました。成果としては商談した旅行会社のうち、イタリアに拠点を置くIl Viaggio Travel Atelier社など、5,6社は特に松本高山へ関心を頂き、帰国後に資料送付も兼ねてコンタクトを取っています。

初日のオープニングシンポジウムではウェルネスツーリズムのポテンシャルについて講演もあり、松本高山のコアバリュー「森と水の循環」は、来訪者の精神的平穏と自己実現の達成という、現代の旅づくりにおいて欠かせない要素を十分に提案できる可能性を感じました。



Topics 3

Kita Alps Travers Route ウェブサイトを今後さらに活用していきます



<https://kitaalps-traverseroute.jp/>

「Kita Alps Traverse Route」サイトでは、松本・高山エリアの本質的な旅の価値や様々な楽しみ方、ニュースなどの情報を掲載できるようリニューアルしました。

特に今回のリニューアルで、今年度作成したブランドブック（Vol.4参照）の内容をもとに、松本高山エリアを来訪する旅の価値の説明ページ（日本語/英語）や、新たにシステムを導入し、松本高山のツアーコンテンツ情報の追加がしやすくなりました。

今後は地域事業者による様々な観光コンテンツを掲載し、販売に繋げてまいります。

Voice < 地域の声 >

この地域で活躍されている方々に、地域産業の高付加価値化の取組事例や外国人旅行者への思いを聞いてみました！

長野県を訪れております。当協議会には発足当初から参画させていただいておりますが、この地域には潜在的な魅力がたくさんあり、そこには先人達が長年保存しながら育んできた継続的な活動があることに改めて気づくことができました。弊社は近年、経営理念にもある「楽しさ・ときめき」をお客様にいかにご提供できるかに力を入れておりますが、今後も、この地域で生活し、従事する多くの従業員自身も「楽しさ・ときめき」を感じることができ、価値な体験を提供することを目指していきたいと考えております。

アルピコホールディングス株式会社 取締役 今村正平
（松本エリアにおける持続可能な観光地づくり産業研究会 副委員長）
アルピコグループのインバウンド事業については、アセアンを中心にビザの要件が大幅に緩和された2013年のバンコクオフィス立ち上げより、本格的に活動を開始しました。当時はまだ大型観光地を効率的に巡る団体旅行が主流だったこともあり、バス（アシ）やホテル（ヤド）を持つ弊社スケールメリットで観光地間を繋げることで付加価値に転換することに邁進しておりました。

このように、国境を越えた対話と相互理解を通じ、新たな枠組みの中で地域や国際社会との連携を強化し、私たちの地域の文化遺産や木の文化を未来へと継承していく取り組みを進めています。

株式会社FUSHI 代表取締役 牧野泰之
私たちは、飛騨高山の豊かな森林資源から得られる木材と、地域特産である飛騨牛の革を活用した家具製造を行うとともに、地域の森林資源と文化遺産を活かした体験型ツアーを提供しています。
この事業を通じて、日本固有の「木の文化」を体験できる場として、以下のような価値を提供しています…
・かつて人々がどのように木と関わり、共存してきたかの紹介
・現代の機械主体による木材加工技術と、伝統工芸である有道しやくしに代表される手作業による割木工技術の比較体験
・九州大学との共同研究による、木材から放出される香り成分が人体に及ぼす効果の紹介
・これからの人と木の持続可能な関係性についての考察
海外からの訪問者と共に古道を歩き、その歴史的意義や美しい景観について語り合うことで、地域の方々の意識も少しずつ変化してきました。こうした体験を通じて、訪れる方々は単なる観光客としてではなく、地域の文化遺産を守り、その価値を再発見する重要なパートナーとなっています。

To be continued：次号ではR6年度の取組の全体報告等を紹介する予定です。